

仕事の都合で出席できず、大変申し訳ございません。書面にて意見をお伝えさせていただきます。

・まず、3月22日の電力逼迫警報は電力の安定供給の重要性と、現段階の日本の電力供給が抱える構造的な脆弱性を再認識させられる出来事だったように思います。

脱炭素の流れで再生可能エネルギーは増える一方、調整を担う火力発電は減少。

今回のように、災害などで複数の火力発電がストップし、天候の悪条件が重なれば、直ちに大停電の可能性に見舞われるという日本の現状を、しっかりと国民に伝えることが必要。

しかも火力発電は、ウクライナ情勢の影響で今後コストの上昇＝料金の上昇が避けられず、国民の生活、生命、産業に直結する問題になることを説明すべきで、安全性が確認できた原子力発電所の再稼働の検討についても国が言及するべきだと思います。

・しかしながら、国際情勢も不透明さを増しており、3月25日には北朝鮮が新型ICBMを日本のEEZ内に意図的に落下させています。日本とロシアとの平和条約交渉も中断したことから、様々なリスク想定をしておかなければならない状況になっています。折しもロシアがウクライナの原子力発電所を攻撃、占拠しているという暴挙に出ているため、地震、津波リスクだけではない「攻撃・テロ」というリスクに日本ではどのように対応できているのか？という不安についても説明が必要だと思います。

安全保障上詳しく説明できないことはお聞きしましたが、国民が納得できなければ再稼働はなかなか難しいのではないかと感じます。

・こうした状況も相まって、今後は脱炭素で安定供給ができる「安全な」革新炉の研究開発が求められると思いますが、その開発段階においてもきめ細かく情報発信をして、国民の疑問、不安、期待を含めてコミュニケーションをとっていくことが必要だと思います。

小型モジュール炉(SMR)、高温ガス炉、高速炉、核融合、それぞれの特徴と課題を具体的にわかりやすく示していただくと良いのではないでしょうか？

特に、多くの国民にとって新たな原子力発電に求めるものの第一は「安全」ですので、種類の違う多様なリスクに対してどう安全なのか、そこは細かく知りたいところだと思います。

もう少し研究開発が進んだ段階でP65の英の評価表のような形で共通項目での比較ができるとさらにわかりやすいと思いますが、(素人ながら)おそらくどの炉も一長一短があり、ミックスが必要なのかもしれないと思いますので、そこも併せて伝えてもらえるといいのではないかでしょうか？